



子どもの権利条約とこども基本法について

こどものけんりじょうやくとこどもきほんほうについて



子どもの権利条約とは？

18歳未満の子どもを「権利の主体」と位置づけ、全ての子どもの権利を保障するための国際的な条約です。日本は1994年4月22日にこの条約に批准しました。今では、世界の196の国と地域がこの条約に批准していて、世界で最も広く受け入れられている人権条約になっています。



こ けんりじょうやく

「子どもの権利条約」は、世界中のこどもたちが幸せに、元気に、安心してく
らせるようにするためのやくそくです。いろんな国といっしょに話し合っ
て決めました。日本も1994年4月22日このやくそくを守ることにしました。



子どもの権利を包括的に明示したこの条文は、前文と本文54条からなり、子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利などに関わるさまざまな権利を具体的に定めています。

子どもの権利条約の基本的な考え方は、次の4つで表されています。

子どもの権利条約の「4つの原則」

差別の禁止
さべつのないこと
(差別のないこと)



子どもの最善の利益
こどもにとってもっともよいこと
(子どもにとって最もよいこと)



生命、生存及び発達に
対する権利
いのちをまもられせいちょうできること
(命を守られ成長できること)



子どもの意見の尊重
いけんをひょうめいしさんかできること
(意見を表明し参加できること)



けんり

こどもには大きくわけて4つの権利（大切にされること、してもいいこと）があります。それは①「さべつのないこと」②「こどもにとってもっともよいこと」③「いのちをまもられせいちょうできること」④「いけんをひょうめいしさんかできること」です。

子どもの権利条約とは？

読んでみよう！ 「子どもの権利条約」第1～40条 日本ユニセフ協会抄訳

<p>第1条 【子どもの定義】</p> <p>18歳になっていない人を子どもとします。</p> 	<p>第2条 【差別の禁止】</p> <p>すべての子どもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。子どもは、年齢や性別、肌の色、宗教、言語、障害の有無、国籍、出身地、家族構成、経済状況、その他の理由で、差別を受けることがあってはいけません。</p> 	<p>第3条 【子どもにもっともよいことを】</p> <p>子どもに関するすべての決定は、子どもにとって最もよいことを第一に考えなければなりません。</p> 	<p>第4条 【国の義務】</p> <p>国は、この条約で定められた権利を守るために、必要な法律や行政措置を講ずる責任があります。</p> 
<p>第5条 【親の指導と尊重】</p> <p>親（保護者）は、子どもの発達に応じて、適切な指導をします。国は、親の指導を尊重します。</p> 	<p>第6条 【生きる権利・育つ権利】</p> <p>すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。</p> 	<p>第7条 【名前・家族をもつ権利】</p> <p>子どもは、生まれたときに登録（出生届など）されなければなりません。子どもは、名前や家族をもつ権利をもっています。</p> 	<p>第8条 【名前・国籍・家族関係が守られる権利】</p> <p>国は、子どもが、名前や国籍、家族関係など、自分が自分であること、できるかぎり親を知らず、親に育てられた権利をもっています。</p> 
<p>第9条 【親と引き離されない権利】</p> <p>子どもは、親と引き離されない権利があります。子どもにもっともよいという理由で、引き離されることも認められますが、その場合は、親と会ったり連絡したりすることができ、子どもは親と連絡をとることができるようにします。</p> 	<p>第10条 【別々の国にいる親と会える権利】</p> <p>国は、別々の国にいる親と子どもが会ったり、一緒に生活したりするために、国を出入りできるように配慮します。親が亡くなった場合、子どもは親と連絡をとることができるようにします。</p> 	<p>第11条 【よその国に連れさられない権利】</p> <p>子どもは、よその国に連れさられることなく、自分の国に留められる権利があります。子どもは、よその国に連れさられることなく、自分の国に留められる権利があります。</p> 	<p>第12条 【意見を表明する権利】</p> <p>子どもは、自分の意見があることについて自由に自分の意見を表明する権利があります。その意見は、子どもの発達に応じて、じょうぶな考慮を払われるべきです。</p> 
<p>第13条 【表現の自由】</p> <p>子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利があります。</p> 	<p>第14条 【思想・良心・宗教の自由】</p> <p>子どもは、思想・良心・宗教の自由についての権利があります。</p> 	<p>第15条 【結社・集会の自由】</p> <p>子どもは、ほかの子どもと一緒に団結をつくったり、集会を行ったりする権利があります。</p> 	<p>第16条 【プライバシー・名誉の保護】</p> <p>子どもは、自分や家族、住んでいるところ、連絡先などのプライバシーが守られます。また、他人から侮辱を受ける権利があります。</p> 
<p>第17条 【適切な情報の入手】</p> <p>子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れる権利があります。国は、本、新聞、テレビ、インターネットなどで、子どもにとって適切な情報を提供するように努めます。</p> 	<p>第18条 【子どもの養育はまず親に責任】</p> <p>子どもを育てる責任は、まずその両親（保護者）にあります。国はその両親を支援します。</p> 	<p>第19条 【あらゆる暴力からの保護】</p> <p>子どもは、あらゆる暴力から保護を受ける権利があります。国は、子どもをあらゆる暴力から保護するように努めます。</p> 	<p>第20条 【家庭をうばれた子どもの保護】</p> <p>家庭をうばれた子どもは、その家庭環境にできるだけ近い状態で生活できるように努めます。また、子どもは、かわりの家庭環境で生活する権利があります。</p> 

※「子どもの権利条約」は前文と54条の条文から成り立っています。日本ユニセフ協会では、具体的な子どもの権利を定めた第1～40条を、わかりやすい訳文として公開しています。



<p>第21条 【養子縁組】</p> <p>子どもを養子にする場合には、その子どもにとって最もよいことを考え、その子どもが新しい親（保護者）の子どもとして生活できるように努めます。国や他の機関だけが養子縁組を認めることができます。</p> 	<p>第22条 【難民の子ども】</p> <p>自分の国の政府から迫害を受ける恐れがある子どもは、難民として認められ、国境を越えて安全な国で生活できるように努めます。</p> 	<p>第23条 【障害のある子ども】</p> <p>心やからだに障害がある子どもは、尊重を受け、自立し、社会に参加し、生活できるように努めます。教育や訓練、保健サービスを受ける権利があります。</p> 	<p>第24条 【健康・医療への権利】</p> <p>子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受ける権利があります。</p> 
<p>第25条 【施設に入っている子ども】</p> <p>施設に入っている子どもは、その施設がその子どもにとってよいものであるかどうかを定期的に調べられる権利があります。</p> 	<p>第26条 【社会保険を受ける権利】</p> <p>子どもは、生活していくのに必要なお金がないときには、国から社会保険を受ける権利があります。</p> 	<p>第27条 【生活水準の確保】</p> <p>子どもは、心やからだだけでなく、最低限の生活水準を確保する権利があります。国は、子どもが、心やからだだけでなく、最低限の生活水準を確保する権利があります。</p> 	<p>第28条 【教育を受ける権利】</p> <p>子どもは、教育を受ける権利があります。国は、すべての子どもが、学校に行けるように努めます。また、子どもは、心やからだだけでなく、最低限の生活水準を確保する権利があります。</p> 
<p>第29条 【教育の目的】</p> <p>教育は、子どもが自分の持っている能力を最大限に伸ばし、人間性と尊厳を尊重することを目指すためのものです。</p> 	<p>第30条 【少数民族・先住民の子ども】</p> <p>少数民族の子どもは、もとからその土地に住んでいる人びとの子どもは、その文化や言語、伝統、宗教、慣習を尊重する権利があります。</p> 	<p>第31条 【休み、遊びの権利】</p> <p>子どもは、毎日、十分な休息と遊びの権利があります。</p> 	<p>第32条 【経済的搾取・有害な労働からの保護】</p> <p>子どもは、お金の稼ぎや有害な労働から保護される権利があります。</p> 
<p>第33条 【麻薬・覚せい剤などの禁止】</p> <p>国は、子どもが麻薬や覚せい剤などの有害な物質を吸ったり、飲んだりすることを禁止する責任があります。</p> 	<p>第34条 【性的搾取からの保護】</p> <p>国は、子どもが児童ポルノや児童買春などに利用されたり、性的搾取を受けることのないように努める責任があります。</p> 	<p>第35条 【誘拐・売買からの保護】</p> <p>国は、子どもが誘拐されたり、売買されることのないように努める責任があります。</p> 	<p>第36条 【あらゆる搾取からの保護】</p> <p>国は、子どもがあらゆる搾取から保護される権利があります。</p> 
<p>第37条 【拷問・死刑の禁止】</p> <p>どんな子どもに対しても、拷問や人権的でない扱いをしてはなりません。また、戦争や紛争で子どもを殺したり、拷問したりすることは絶対に許されません。</p> 	<p>第38条 【戦争からの保護】</p> <p>国は、15歳未満の子どもを武装勢力に参加させないように努めます。また、戦争や紛争で子どもを殺したり、拷問したりすることは絶対に許されません。</p> 	<p>第39条 【被害にあった子どもの回復と社会復帰】</p> <p>戦争や紛争で被害にあった子どもは、心やからだの回復を助け、社会にもどる権利があります。</p> 	<p>第40条 【子どもに関する司法】</p> <p>罪を犯した子どもは、ほかの人の人権を大切にし、社会にもどる権利があります。また、子どもは、心やからだの回復を助け、社会にもどる権利があります。</p> 



きほんほう

こども基本法とは？

2022年6月に成立し、2023年4月に施行されました。

すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、その基本的な考え方ははっきりとさせ、国や都道府県、市区町村など社会全体で、こどもに関する取組「こども施策」を進めるためにつくられました。これから国や都道府県、市区町村は、このこども基本法の内容に沿って、こどもや若者に関する取組を進めていきます。



日本のこどもたちが幸せにできるように、国や大人がみんなできょうりよくして、こどもたちのことを一番に考えようという国がきめたやくそくです。



こども基本法には、4つの基本理念と6つの基本方針が定められています。



きほんりねん

基本理念とは「なぜそれをするのか」「どんなことを大切にしたいのか」という、一番大切な気持ちや考えのこと、

きほんほうしん

6つの基本方針（みんなで守る約束）とは、こどもたちが安心してここからだも健康にすくすく成長するために一番大切な考え方です。



子ども基本法「4つの基本理念」

差別の禁止

どんな子も、生まれた場所や体のこと、好きなことで差別されません。

生命、生存及び発達に対する権利

こどもたちが安心して暮らせるように、いじめや虐待から守ったり必要な時に助けをくれます。

子どもの意見の尊重

こどもたちが自分の意見を言えるように、色々な機会をつくってくれます。

子どもの最善の利益

その子にとってもっともよいことをいちばんに考えます。



きほんほう

きほんほうしん

子ども基本法「6つの基本方針（みんなで守るやくそく）」 （こども施策※が大切にしている考え方）

- ①どんな子どもも人として大切にされること
- ②安心して生活でき、あいじょうを受けて育つことができること
- ③自分にかかわることは、自分で意見を言えること
- ④年れいやせいちょうに合わせて、一番よいことがゆうせんされること
- ⑤子育ては家庭をきほんに、みんなで助け合うこと
- ⑥子どもたちが楽しく幸せな家庭や社会をつくること



こども基本法とは？



こども施策（みんなで守る約束）とは？

- ・おとなになるまでの心や身体のサポートをすること
たとえば・・・いばしょづくり、いじめたいさくなど
- ・子育てをする人たちへのサポートをすること
例えば・・・はたらきながら子育てしやすいかんきょうづくりやこまった時に
話せる場所や助けをもとめられる場所をつくること



こどもって何さいまで？

きほんほう

・こども基本法では、18さいや20さいといった年れいでサポートがなくならないよう、心と身体のせいちょうのとちゅうにある人を「こども」としています。こどものそれぞれのようすにあわせて社会で幸せにくらしていけるよう、ささえていきます。





けんりじょうやく きほんほう
こどもの権利条約やこども基本法についてわかりましたか？
つぎのクイズに答えてかくにんしてみましょう！





けんり 子どもの権利クイズ



クイズ1

きほんほう

こども基本法でこどもはなんさいまで？

- ① 16さいまで
- ② 18さいまで
- ③ 20さいまで
- ④ 心と身体のせいちょうのとちゅうにある人





クイズ1 こたえ④

こたえは④の心と身体のせいちょうのとちゅうにある人

子どもの権利条約では、子ども＝18さいまでとしています。

こども基本法では、18さいや20さいといった年れいでサポートが受けられなくならないよう、心と身体のせいちょうのとちゅうにある人を「こども」としています。



クイズ2 だれのけんり（大切にされること、 してもいいこと）が大切だろう？

- ① 自分のけんり
- ② 友だちのけんり
- ③ どちらも





クイズ2 こたえ③

こたえは③のどちらも。子どもはみんな同じけんりを持っています。おたがいに守りたいけんりがぶつかり合うことがあったら、おたがいの守りたいけんりを大切にしながらどんなかいけつ方法があるかいっしょに話し合って考えよう。

クイズ3 こどもの施策（みんなで守るやくそく）に対して子どもが意見を言うことはできる？

- ① できない（大人がきめる）
- ② できる





クイズ3 こたえ②

こたえは②のできる。

けんりじょうやく

げんそく

子どもの意見を大切にすることは、子どもの権利条約の4つの原則の一つです。

クイズ4 子どものけんりは宿題をやらなかつたりやくそくを守らなかつたりすると取り上げられる？

- ① はい
- ② いいえ





クイズ4 こたえ②

こたえは②のいいえ。

けんりは、子どものけんりを含めて、すべての人が生まれたときから持っているもの。もちろんやるべきことや守るべき約束はあるけれど、「子どものけんり」はそれらと引きかえにあたえられたり取られたりするものではない。



クイズ5 子どもが言うことを聞かないときや悪いことをした時も、大人はたたいたりぶったりしてはいけない。

- ① はい
- ② いいえ





クイズ5 こたえ①

こたえは①のはい。

けんりじょうやく

子どもの権利条約では、どんな理由でも子どもがぼうりよくをふるわれたり、ひどいあつかいを受けることがあってはならないと定めています。

ぼうりよくで子どもにいたい思いをさせたり、言葉で心をきずつけるようなことはゆるされません。



子どもの権利条約やこども基本法について、りかいましたか？

つぎは、アンケートの回答をおねがいします。

アンケートの回答はこちらのURLからおねがいします。

